

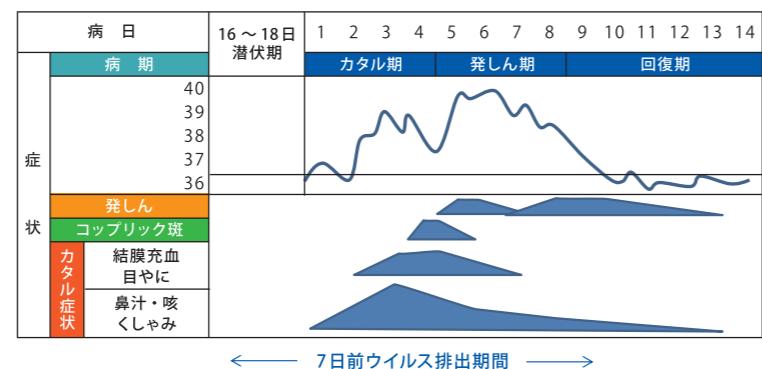
感染対策ミニちしき Vol.6

テーマ「麻疹(はしか・measles)」

麻疹は麻疹ウイルス(measles morbillivirus)によって引き起こされる全身に症状が出る感染症です。実は、日本は2007年頃に10～20代を中心で大きな流行があり、諸外国から冷ややかな目で見られていきました。2008年から5年間、「中学1年生・高校3年生に相当する年齢の方」と「1歳児」に対してワクチンキャンペーンを行った結果、2015年3月27日世界保健機関西太平洋地域事務局より『日本が麻疹の排除状態にある』ことが認定されました。

しかし、2016年に『空港職員やコンサート会場に麻疹に罹った人がいた』というニュースがありました。国立感染症研究所の調査結果より、日本古来からある麻疹のウイルス株ではなく、海外のウイルス株ということが判りました。

実は、26～39歳あたりは『ワクチン不徹底世代』と言われており、実際昨年罹患した多くはこの世代でした。麻疹は人に病気をうつす力が強い病気ですので、罹らないようにするにはワクチンを打ち抗体を獲得することが重要となります。母子手帳を確認して2回ワクチン接種しているか確認してみましょう。もし、1回だけの実施であれば、抗体価検査を行うか麻疹ワクチンを接種しましょう。



IMSグループからのお知らせ 医療・介護のことでお悩みはありませんか？

IMSグループ総合サービスセンターが、みなさまからの医療・介護のご相談をお受けします。詳しくはホームページをご覧ください。

来訪もしくは、お電話かホームページ【メールフォーム】よりお問い合わせください。

FREE 0800-800-1632

※「050」からはじまるIP電話および国際電話からはご利用いただけません。

03-3989-1141 (代表)

受付時間／平日8：30～17：30 土曜日8：30～12：30(日祝・年末年始休み)

IMS総合サービスセンターのサービス内容や、IMSグループの最新情報をご覧いただけます。
<http://www.ims.gr.jp/gscenter/>

アクセスマップ



IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会
東戸塚記念病院

Vol.06 2017年10月発行(第000006号)制作・発行 東戸塚記念病院 広報委員(先崎) / 本誌掲載記事・写真等、無断転載禁止

〒244-0801 横浜市戸塚区品濃町548-7
TEL 045-825-2111 FAX 045-824-8817
<http://www.higashi-totsuka.com/>

IMSグループ 広報誌 プラザイムス

PLAZAIMS

2017.10月秋号
VOLUME. 06

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報を伝えするコミュニケーションペーパーです。



救急科集合写真

救急科医師挨拶

むらの みつまさ
村野 光和

【専門医認定・資格】医学博士／日本外科学会外科専門医／日本救急医学会救急科専門医

救急科医師の村野です。救命救急センターでの2年間の修行を終え、平成28年4月より東戸塚記念病院へ戻って参りました。当院の救急科は平成24年7月に開設され、約5年が経過しました。平成29年度からは専従医が1名増員となり2名体制となりました。救急外来では、院内全科の協力のもと、救急車の受け入れや直接来院された患者様の診療を24時間体制で行っています。

開設以来、救急車の収容要請を断ることなく受け入れるよう努力を続けた結果、救急車の受入件数は毎年増加傾向にあります。平成28年度においては前年度より約2000件増と大幅に増加し、9200件にまで達しました。これは、横浜市内で第2位の受入件数であり、病院の規模的に考えると全国的にもトップクラスに入ってきたと思われます。

横浜市内の救急車出動件数も毎年増加傾向にあることから、今後も当院の救急外来を受診される患者様が増加すると考えられます。

そこで当院の救急外来では、多くの患者様がより迅速かつスムーズに適切な初期診断・治療を受けられるよう、各科・各部門との連携を今まで以上に強くしています。さらに、重傷で緊急性の高い患者様が来院された場合には、院内だけでなく高次医療機関など他病院と連携し、遅延なく高度で専門性の高い医療へつなげられるような体制を整えています。

引き続き、地域の救急医療の窓口となるよう努力を続け、患者様に「東戸塚記念病院の救急外来を受診して良かった」と思っていただけるよう、より良い救急医療を目指していきます。

放射線科よりお知らせ

放射線検査による被ばくについて

放射線にはさまざまな種類があります。X線、 γ 線、 α 線、 β 線、中性子線など、また厳密にいえば紫外線や赤外線も放射線の仲間です。

自然界にも放射線が存在しています。宇宙や大地、建物や食物などから、年間平均で2.4mSv被ばくしていると言われています。

一般撮影(いわゆるレントゲン)やCTではX線を使用しています。これは、機械発生なので、スイッチを押していない時は、放射線はでていません。

当院では行っておりませんが、RI検査(PETなど)は、通常のX線検査と少し違っていて、放射線(γ 線)を出す薬品を体の中に投与し、その薬品が体のどの部分に集まるかを測定します。時間がたつと放射線を出す力は無くなり、体の外に排出される仕組みとなっています。



被ばくした時、体の中では何が起きているのでしょうか？

X線は、体を通り抜けて行くだけで、体の中にとどまるわけではありません。通り抜けて行くときに、少し細胞が傷つきますが自己修復をします。スリ傷が自然に治るようなイメージです。

ただし、一度に大量の被ばくをすると、細胞は修復が追いつかずいろいろな障害が起こってきます。

どのくらいの量を被ばくすると、影響が出るのでしょうか？

被ばくした部位によって、ある線量以上被ばくしなければ、影響がないという値が分かっています。

悪心、嘔吐 1000mSv **脱毛** 2000mSv **白内障** 5000mSv

永久不妊 男性:3500~6000mSv 女性:2500~6000mSv **胎児への影響** 100mSv

一度にその線量以上の被ばくをしなければ、体に影響はありません。(これ以上被ばくした場合にすべて影響が出るわけではありません。)また、100mSv以下では、がんになる確率は増えないことが分かっています。

放射線検査ではどのくらい、被ばくしているのでしょうか？

右の表は、レントゲンやCTでのX線量を表したものです。体に影響がでる線量よりもかなり低く、ごく微量であるといえます。つまり、放射線検査での被ばくは、体に影響がでることはないと言えるでしょう。

しかし、被ばくしないに越したことはありません。医師は、検査適応を判断し、放射線技師は、可能な限り線量を減らし、不必要的被ばくをしないように検査を行っています。

被ばくを怖がって検査を受けないより、病気やけがを発見し、最適な治療を行う方が、患者様にとって、とても有益なのです。



部 位	国際安全基準値(mSv)	当院 (mSv)
胸部(正面)	0.24	0.14
腹部(正面)	2.4	1.41
頭部(正面)	2.4	2.32
腰椎(正面)	3.2	2.44
骨盤(正面)	2.4	1.64
膝関節	0.32	0.23
手指部	0.08	0.04
頭部CT	3.1	2.4
腹部CT	7.6	3.75
自然放射線(一年間)	2.4	

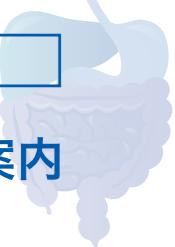
*どちらも1回あたりの数値となります。

医事課(健診)よりお知らせ



胃腸の健康気になりませんか？

消化器ドックのご案内



消化器ドック

現在日本人の死因第1位は癌とされており、その中でも消化器で発症する癌は上位にランクインされています。多くの方が命を落としている癌の早期発見・早期治療の手助けをすべく、東戸塚記念病院では、9月より「消化器ドック」を開設しました。

当院の「消化器ドック」では、基本プランとして「上部内視鏡検査＆便潜血検査」を行います。さらに詳しい検査をご希望される場合は、オプションプランとして「腹部超音波検査」「ピロリ菌&血液・尿検査」をお付けすることも可能です。

上部内視鏡検査とは・・・

食道、胃、十二指腸を直接カメラで観察する検査で、胃癌・食道癌の早期発見や逆流性食道炎、十二指腸潰瘍、胃潰瘍などの診断が可能です。

当院の消化器ドックでは、口からの胃カメラチューブ挿入(経口内視鏡検査)に抵抗のある方でも検査ができるよう、鼻からの胃カメラ挿入(経鼻内視鏡検査)も行っており、さらに検査時の苦痛を最小限に抑えるセデーション(鎮痛剤)を施すことも可能となっております。

便潜血検査とは・・・

排出された便の中に血液の反応があるかを調べる検査です。大腸の中に潰瘍やポリープ、癌ができるないかを調べることができます。

当院では便潜血キット2個を事前にお送りし、1日2回、もしくは2日分の便を採取してご持参いただき、検査を行っております。

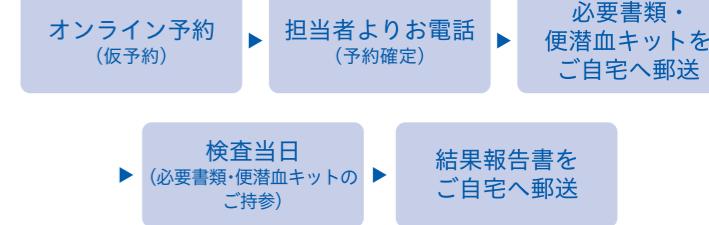
基本プラン



「要精査」と診断された場合でも、当院での継続治療が可能となっております。
インターネットから簡単にご予約いただけますので、胃腸の健康が気になる方は是非ご利用ください。

お問い合わせ・お申込み方法 『消化器ドック』は病院ホームページの専用予約サイトよりお申込みください▶

オプションプラン



受診の流れ

